

# Brexitとイギリス・EU

## 講演テーマ

### Brexit: 市場統合と貿易自由化の間のギャップに注意せよ

(Brexit: Mind the Gap Between Market Integration and Trade Liberalization)

講師：Piet Eeckhout教授（UCL法学部長・EU法）

日時：2018年10月22日（月）17時20分～19時00分

場所：インテリジェント・ホール（一橋大学国立西キャンパス）

使用言語：英語

申し込み不要・参加自由

イギリスでは、2016年6月の国民投票で、EUからの離脱を支持する意見が多数を占め、世界に大きな衝撃を与えました。EU条約50条に基づくイギリスのEU離脱が2019年3月29日に予定されており、離脱交渉が続けられていますが、いまだ脱退協定の合意には至っていません。交渉の帰趨は、イギリスの将来、EUの将来だけでなく、日本を含む他国にも大きな影響を及ぼします。

このたび、EU法の権威であり、UCL（University College London）の法学部長でもあるPiet Eeckhout教授をお招きし、イギリスやEUの将来についてご講演をいただくこととなりました。関心のあるみなさんのご参加をお待ちしています。

〔講演概要〕イギリスのEU離脱交渉が長引いていることが示してきたのは、国際的経済協力をめぐる2つのパラダイムの間のギャップである。域内において、また少数の近隣諸国との間でEUが実施している市場統合のシステムは、数十年にわたり発展してきた。このシステムはなお一層洗練され、伝統的な国際貿易の諸形態から大きく隔たってきた。協力と統合の中間形態を支持するイギリスの試みは、顧みられてこなかった。講演では、こうしたギャップには重要な法的、制度的、政治的理由が存在しており、架橋が容易ではないことが明らかにされる。本講演は、欧州議会国際貿易委員会の求めで執筆した研究に基づくものである。

〔Piet Eeckhout教授略歴〕現在、UCL（University College London）法学部長、EU法教授、UCL欧州研究所所長。『オックスフォードEU法ライブラリー』（オックスフォード大学出版会）及び『欧州と世界』（UCL出版会）の共同編集者。欧州の様々な大学で教鞭をとり、欧州司法裁判所にも勤務（ジェイコブス法務官室）。研究領域は、EU法・国際経済法の多くの分野に渡る。EU憲法、人権法、EU域内市場の法則、司法的保護、国家支援法、並びにWTO法の諸問題について論攷を公刊してきた。主要な問題関心の1つがEUの対外関係であり、彼の著書はこの分野の代表的著作となっている。